

厚生環境教育常任委員会視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 片山竜美

1 日 に ち	令和 5 年 10 月 5 日 (木)
2 視 察 先	大田区立御園中学校分教室 みらい学園中等部
3 参 加 者	【委員長】 片山竜美 【委員】 亀井芳樹、加藤智章、奥村孝宏、井上あけみ、嶋内九一 【副教育長】 熊崎健一 【議会事務局】 山内祥子
4 調 査 内 容	みらい学園中等部における不登校生徒支援の取組について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	【主な質疑・懇談内容】 ・ 公立の中学校で、分教室として設置され、中学1年生から3年生までの3クラスある。 ・ 教員も3クラス分の正規教員と7名の会計年度職員（いわゆる講師）で運営されており、管理職は本校（御園中学）から週1回程度参観に来る。 ・ 建物はかつての区立図書館を改装しており、外見からはとても中学校があるとは思えない。また、本校とも2駅分離れている。 ・ 学校への復帰を目的とする場所ではなく、自分を見つめ、将来のことを考え、自分で生きる力を培っており、カリキュラム上の大きな特色として、「キャリア教育」に力を入れている。 ・ 特例校はカリキュラムを通常より少なくできるが、本校では、ほとんど大差なく行っており、しっかりと学習できる環境にある。 ・ そのため、子どもたちに無理を生じさせないために、個別学習の時間や体育を短時間で横帯で組むなど様々な工夫をしている。 ・ 養護教諭やスクールカウンセラーも常に教室に入ったり、子どもたちと遊んだり、子どもたちの輪に入って対話している。 ・ 何かあれば、それぞれの部屋で相談を受けたり、診断をしたりしている。先生と生徒の垣根が一切ない。 ・ 職員室内がガラス張りで見えようになっているっており、子どもたちは先生がいるかいらないか、職員室に入らなくても分かるようになっている。 ・ 区として中学校に「不登校支援コーディネーター」、小学校に「不登校対策推進担当」を置いている。彼らの負担軽減のため、週10時間の講師も付けている。 ・ 不登校支援アドバイザーとして、有識者を派遣し、講演などを行っている。時には保護者や先生と個別に懇談することもある。 ・しっかりと成績も付けるので、進学も通信制ではない高校に進む生徒も多い。

	【所見】 ・ 「そこしか行けない生徒はいません。必ず自分に合ったところを見つけ出して、自分で行きたいところに進学しています」との発言があり、キャリア教育を含め、本校で取り組んできたことが生かされていると感じた。 ・ 子どもたちもいきいきと、真剣なまなざしで授業を受けており、学校に行きたくてもいけない子どもたちがこうした「学びの場」に出会い、真剣に関わる大人がいることで、その後の人生が大きく変わる！そんな現実を目の当たりにした2校の視察であった。 ・ 多治見市でも、こういった「学びの居場所」を望む声がある。財政面や場所の確保等様々な高いハードルはあるが、しっかりと調査研究を進めながら、少しでも早く設置できるよう、私たち議会も働きかけていきたいと考える。
6 写 真 等	

※視察先1件に1枚作成すること。